



## Mail to Kumamoto



### 今月の送信者

マッキンゼー・アンド・カンパニー  
ディレクター  
(シニアパートナー)

ほんだ けいこ  
**本田 桂子さん**  
(熊本市出身)

### 経歴

お茶の水女子大学卒業。米国ペンシルベニア大学ウォートンスクール(経営学大学院)修士課程修了(MBA)。リーマン・ブラザーズを経て、現在マッキンゼー・アンド・カンパニーディレクター(シニアパートナー)。

2002年度 一橋大学 大学院客員  
助教授(国際企業戦略研  
究科金融戦略コース)

2002-04年度 中央大学 会計大学  
院非常勤講師

共著・共訳書に「マッキンゼー事業再生」(ダイヤモンド社)、「企業価値評価ーバリュエーション」第3版・第4版(ダイヤモンド社)、「マッキンゼー合従連衡戦略」(東洋経済新報社)などがある。

### 会社概要

1926年に、シカゴ大学の経営学教授だったジェームス・マッキンゼーが、米国で興した経営コンサルティングファーム。1971年に東京に日本支社開設。北南米、欧州、南米、アジア、中近東、アフリカに90を超える支社を有し、日本および諸外国の企業、政府等に対して、戦略、組織、オペレーション、M&A、グローバリゼーション等についてのコンサルティングをおこなっている。

関東や関西でご活躍されている熊本県出身や熊本にゆかりのある経済界の皆様から届いた、熊本への想いや提言などを掲載して好評いただいている「ふるさとへの便り」。

今回は、熊本市出身で現在は、マッキンゼー・アンド・カンパニー ディレクターとしてご活躍されている本田桂子さんがご寄稿してくださいました。

## 熊本は“熱い”国

黒髪小学校、若葉小学校、東野中学校、熊本高校をへて上京した私にとって、熊本は熱い国である。

他人のことに口を出さない、がんばらない、*“クール”*にかまえることがよしとされる風潮が日本全体にはあるように思う。ところが、熊本人には、物事に熱く取り組み、その熱さを隠さない方が多い。上海やソウルで感じる熱気があるのだ。デフレ脱却の重要性が長期にわたって説かれ、日銀もターゲットインフレを導入したが、一人一人に熱気、エネルギーがないと、再度成長基調に乗せるなどということは難しいのではないだろうか。熊本人に熱気があるのは、素晴らしい。この熱さ、エネルギーから、

何かを熊本発でもっとうみだしていけないか。専門学校や大学をでて、卒業後3年以上同じ企業に勤務し続ける人は、52%という調査が発表された。もはや、よらば大樹に終身雇用が主流とはいえない。一方、高校の後輩で、熊本で起業し、上場された方もいらつしやる。インターネットの普及により、熊本発のビジネスもずつとやりやすくなったのではないか。高成長のアジアにも近い。90年代半ばに赴任していたソウルから熊本に帰省した際に、ソウルー熊本が、熊本ー東京より近いことに驚いた。熊本発の起業がもつと盛んになることを望みたい。

また熊本の熱気を最近身近で感じた例が2つある。ひとつは、米国最強の金融機関といわれたゴールドマン・サックスの管理職にあつた女性が、熊本の男性と恋に落ち熊本にお嫁入りされた。二つ目は、くまモンの活躍。私事で恐縮だが、フェイスブック創業者の出身校でもある米国の高校で学ぶ娘の回りでは、くまモンが大人気。うれしい驚きであつた。